

大道芸アジア月報 2024 年 10 月

vol. 36, no. 10

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>

■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>

■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>

■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、） <http://daidoge.jp/>

■お台場・デックス東京ビーチ ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com

■東京都ヘブンアーティスト <https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/heavenartist/>

■中部大道芸ネットワーク <https://www.facebook.com/mrkrddg>

■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★今月の大道芸公演

△ダメじゃん小出の黒く塗り！ vol. 53 <https://nigiwaiza.yaf.jp.org/> ○横浜にぎわい座・のげシャール

●9月28（土） 昼の部 14：00 /夜の部 18：00

ダメじゃん小出

前売り ¥2100（当日 ¥2600）

窓口・電話 045-231-2515

△隅田川水辺フェスティバル大道芸 <https://koto-sumida-daidougei.com/event/20240929/> ○白鬚橋上流水辺テラス

●9月29（日）

△高知大道芸フェス 2024 <https://kochi-daidougei.com/> ○高知市中心街

●10月5（土）6（日）

KANA∞、桔梗ブラザーズ、SAMESAME、Juggler Laby、シルヴプレ、ゼロコ、張海輪中国雑技王、to R mansion、Performer SYO !、HARO、ホワイトアスパラガス、三雲いおり、Mr. BUNBUN、吉川健斗

△ぎふ大道芸まるけ 2024 <https://ameblo.jp/kusudakusuhiro/entry-12860479924.html> ○各務原市川島 オアシスパーク

●10月5（土）6（日）

Rei Iwakura、サンキュー手塚、ミコアポコ、健山、大道芸人ジーニー、KEIKO、エル、Box Theater HANE、エンジョイ Joy、CZ↑（5日のみ）、笑福亭鶴笑一座（6日のみ）、ぼびー（6日のみ）、パフォーマーえはら（6日のみ）、後藤凌（Ryo）（6日のみ）、C.C（シーツ〜）、中村友美、アストロノーツ、くす田くす博

△第49回すみだまつり・こどもまつり <https://sumidamatsuri.com/> ○墨田区錦糸公園・テニスコート特別会場

●10月5（土）6（日）

5日：オグラス、SEOPPI、ミルコ 6日：オグラス、松鶴家天太、紙磨呂

△新横浜パフォーマンス 2024 <https://shinyoko.net/> ○新横浜駅前広場ほか

●10月5（土）6（日）

みさとの似顔絵やさん、つねむね、聖寿、あんぼ a. k. a. でぶんつか、パフォーマー“ちえん”、Juggling Performer Sugar、マスター、トネトボン、ideo2、ハタダ、春雷—SHUNRAI—、TOMMY、パフォーマンスチーム“ROCKs”、ZEN、パフォーマーMASA、

△よみうりランドハロウィン大道芸 <https://www.yomiuriland.com/event/halloweendaidougei/> ○よみうりランド：太陽の広場ほか

●10月5（土）6（日）

りずむらいす、大天狗やますけ、あんのうん、Asterisk NOVA、油井ジョージワンマンバンド、クラウン・リオ、ジェンガ金次郎、ほか

△千束通り de 大道芸 <https://x.com/ottosaiko/status/1837034971640516885> ○浅草・千束通りデンキヤホール横

●10月6（日）

おととちゃん、かお、タラン・ニバキンス、サクノキ、東雲ゴールド、

△深川お化け縁日 2024 秋の陣 <https://fukagawakaidan.tumblr.com/> ○深川江戸資料館通り

●10月6（日）11：00～16：00

恐怖紙芝居の〇〇一味、妖怪プロジェクト、アメノシズ

△たかまつ大道芸フェスタ 2024 ○香川県高松市・サンポート高松ほか

●10月12（土）13（日）

https://www.facebook.com/story.php?story_fbid=8022174491192939&id=100002014042075&rdid=x356HDIHi2ouTU9

加納真実、芸人まこと、ココナッツ山本、ゼロコ、Juggler Laby、チャラン・ポ・ランタン、Mr. BUNBUN、SUKE 3 & SYU、HIBI★Chazz-K、

feat. 久保田浩之、シルヴプレ、長谷川愛実×吉川健斗、松本かなこ、 nani-sole、ガンジスインダスドードス、Ciel La Veil、Juggler A→G

△町田大道芸 https://www.facebook.com/machida.s.p/?locale=ja_JP ○町田パークアベニュー商店街ほか

●10月12(土) 13(日)

HOOPER MAEP、猫のアーサー、油井ジョージワンマンバンド、Balloon-Syotaro、はさみ家紙太郎、しょぎょーむじょーブラザーズ、ジェンガ金次郎、中国雑技王張海輪

△大道芸博覧会 <https://daidougei-hakurankai.com/> ○佐賀市佐賀国際空港グラウンド

●10月12(土) 13(日)

張海輪、サンキュー手塚、マスター、リューサー

△エンターテイメント! 亀戸 vol.18 <https://www.kameidodaidougei.com/> ○亀戸十三間通り商店街

●10月13(日)

おいかどいちろう、江戸太神楽・菊仙、あくびがうつる、樹(ノンバーバルマジック)、村山祐司、花売少女、ハードパンチャーしんのすけ

△大道芸フェスタ in 虎御前 2024 <https://torasho.sakura.ne.jp/wp/> ○長浜市虎姫生きがいセンター

●10月14(月・祝)

バルーンパフォーマーRay、Performer LEO、マジシャン紙磨呂、Mr. BUNBUN、アストロノーツ Mark2、バルーンパフォーマーアキ、アンジェラ・チェリー

△江東区で会いましょう https://x.com/koto_aimashow ○高橋商店街のらくろ〜ど

●10月14(月・祝)

三雲いおり、マスター、izuma、りずむらいす、しょぎょーむじょーブラザーズ

△第45回大須大道芸 前前夜祭 <http://www.ohsu-gei.net/daidougei/flyer2024.html> ○大須演芸場

●10月14(月・祝) 19:00 開演

ダメじゃん小出、(ゲスト) BINGO

前売予約¥3000/当日¥3500(全席自由席)

△第45回大須大道町人祭 <http://www.ohsu-gei.net/index.html> ○名古屋市中区大須観音界限

●10月18(金)〜20(日)

大駱駝艦、ハラプロジェクト、デカルコ・マリイ、ダメじゃん小出、セ三味ストリート、江戸糸あやつり人形・上條充、桜小路富士丸、石原耕、火付盗賊、ザ・スコビルズ、Syan、izuma、LUNA、張海輪、めりこ、to R mansion、komatan、しょぎょーむじょーブラザーズ、HOOPER MAEP(土曜のみ)、バルーンパフォーマーRay、シルヴプレ、池田洋介、三雲いおり、Performer SYO!、吉川健斗、Mr. BUNBUN、飴細工アーティスト・蜜咲ばう、飴細工家・きたきや、りずむらいす、アンフィスバエナ、足長フラフープ・ボーカル、タカパーチ、油井ジョージワンマンバンド、一人プロレス、ガンジスインダスドードス、un-pa、ペストリカ、ジェンガ金次郎、アストロノーツ、木遣り、大須太鼓

△世田谷アートタウン 2024 三茶 de 大道芸 <http://arttown.jp/> ○三軒茶屋周辺

●10月19(土) 20(日)

ASIA GOLD PRO WRESTLING(20日のみ)、オジロス(20日のみ)、Asterisk NOVA、Okk、加納真実、川村健太、芸人まこと、K-TARO、カンカンバルカン楽団(20日のみ)、こ〜すけ、cocochi-kit、ココナッツ山本、サクノキ、Sam Thomas & Luke Taylo、松鶴家天太、SUKE3 & SYU、ゼロコ、竹内直 The Organic Resonations、チャラン・ポ・ランタン(19日のみ)、中国雑技芸術団、nani-sole、Funny Bones、Dctpeppers Theatre(20日のみ)、なつかよ(20日のみ)、ブラックエレファント、フレディーノ、ボード山田、松本かなこ、目黒陽介、Yuka&Giovanni Gypsy Duo、Yo-Yo Entertainer TOMMY、Theater Rue Piétonne、ヲズメ、小島政美、ミホウペイント、紙芝居梅ちゃん(19日のみ)、占い(MIEL、キャロライン)

△高須中大道芸フェス 2024 <https://x.com/takasudaidougei> ○鹿児島県鹿屋市パーク高須中

●10月26(土) 27(日)

(スタチュー) アメノシズ、C.C、(回遊) HARO、(ステージ) shunta、SEOPPI、大道芸人ジーニー、チムチムサービス、HOOPER MAEP、Ray

△大道芸ワールドカップ in 静岡 2024 <https://daidougei.com/> ○静岡市駿府城公園ほか

●11月1(金)〜4(月・休日)

オン部門: アスタリスクノヴァ、IGNIS DE ORNIS、izuma、idio2、Witty Look、GABEZ、紙磨呂、コンパニア ジョカ、工藤正景、コンパーニャ ベラ ヴィータ、桔梗ブラザーズ、くるくるシルク、しょぎょーむじょーブラザーズ、シルヴプレ、SPIN stAr、ゼロコ、ソーニ ディサポーネ、大車輪専門転、張海輪中国雑技団、to R mansion、ハタダ、パフォーマーささまん、performer SYO!、火付盗賊、ヒノガクヤ、Heromacro、ヒラク、ファンコラース、ファンティンリヤン、FreestylerNARI、めりこ、望月ゆうさく、りずむらいす、油井ジョージワンマンバンド、Ray 麗、和音和技

フェスティバル交流部門: オリエンタルマジックシアター・ダン、サーカス・ディー・ラボ、ソ・ナンジェ

ウォーキング部門: アストロノーツ mark2、E.M.F、エンプレス スティルトダンス、ガンジスインダスドードス、KISSER、斉藤智輝、ジェンガ金次郎、紫穂、しろみときみ、BiGRooTs、モアザンマイムシアター

フリンジ部門: シンクロニシティ

若林正の

食って極楽

日本唯一

クルドレストラン「メソポタミア」

12月にクルド難民が関わる芝居に出演することになった。私の住む界限は、クルドの人々が多く住んでいるので身近なお話でもある。ネットをググっていたところ、日本唯一というクルドレストランを見つけ、場所も埼京線の十条と近いので、早速ランチに出かけてみた。駅南口からすぐ、とあったのだが、なかなか見つからず辺りをうろろする。変だな？と振り返って見上げると、デカイ字でメソポタミアとある。改札の目の前で入口が小さく、シャッターが上がりきっていないので意識から外れていたらしい。

店はビルの三階で、狭く薄暗い階段を上り到着。土曜日の昼時だが、ひと気が無く「やってますか〜？」と声をかけると、キッチン奥から「どうぞ」と返事が。こぢんまりした店内はランプやタペストリーで異国情緒を醸し出しているが、いかんせん客一人だと居心地が悪い...クルド人(?)のおばちゃんがそこそこまい日本語でメニューをとるが、マスターがしばらく不在でランチメニュー以外は出来るものが少ないとのことで¥850のAランチにする。

クルドピラフ、インゲンと羊肉煮込み、揚げ肉団子とヨーグルトドリンク。中近東の料理にしてはスパイスがキツくなく、薄味。美味しい、ということはないが、身体に良さそう。ただ量が少ない！

あつという間に平らげ、ムスカというナスの煮込み¥500を追加する。ピスタチオで淹れたお茶や焼き菓子がメニューにあるが、今日は出来ないというので次回のお楽しみ。ホントはクルドの方と少しお話できればと思っていたが、もう少し通って顔馴染みになれたらにしよう。結局その後ラーメン食べたからランチにしては高くついたのはナイショである。



○慣れたら美味しいと思う度=6ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 395

1920年代のチンドン屋 2

上島敏昭

〇一人囃子と五人囃子

前号のあと、『チンドン 聞き書きチンドン屋物語』の著者、大場ひろみさんからメールをもらった。木馬亭公演のチラシに「大場ひろみさんからチェックが入って〈産声をあげた〉を〈脚光をあびた〉と訂正した」と書いた箇所について、これだけでは何について異議申し立てをしたのか曖昧なのではないかという。つまり〈チンドン太鼓を使用する現在のちんどん屋と同じ形態の街頭宣伝業は、昭和以前の大正期からあって、かなり広まっていた〉という事実があるが、「産声をあげた」といってしまうと、その事実がみえてこないということだ。まったくその通り。言葉足らずで申し訳ありません。さて、今回のテーマはそのあたりのことである。

大場さんの指摘のように大正時代に、すでに「チンドン太鼓」が使われていた事例を紹介する。

『カメラ社会相』(片岡昇著、文藝市場社、1929年)掲載の「立派な東西屋」と題された記事の写真をみていただきたい。大正14年9月1日の撮影とある。この写真は、大場さんも『チンドン 聞き書きチンドン屋物語』に載せている。つまり、昭和になって「チンドン屋」



とよばれる街頭宣伝業者が、大正14年当時、すでに存在しており、この著者は、それを「東西屋」としてここに紹介している。その風体は当時とすれば珍しいもので、スナップ撮影した。著者はこの人物にインタビューもおこなっている。

「へー、私しの今演ったのですか、あれは一人囃子ですよ。つまり五人でやれば五人囃子になるわけです」と述べている。つまり、この人物は自身を、チンドン屋でも東西屋でもなく、「一人囃子」と自称している。そして五人

囃子というものもあるというのだ。

五人囃子については、大場さんも『チンドン チンドン屋物語』のなかで記述している。

〈チンドン太鼓のルーツについて聞かれると、親方たちが必ずといっていいほど挙げるのが「五人囃子」の宣伝隊である。(中略)ちんどん屋のいう「五人囃子」は、締太鼓、大太鼓(大胴)、鉦(ヨスケ、チャンチキ)、横笛(トンビ)、三味線の五人とある。

また前号で紹介した『街頭経済』(国民新聞社経済部)の「チンドン屋」の項にはつぎのようにある(昭和2年9月の取材と思われる)。

〈単にチンドン屋と云っても、之を



大別すると、都ばやしと東ばやしの二つにする事が出来る。都ばやしは太鼓、三味線、笛、鐘（注・鉦だろう）が交り五人でやるので、五人ばやしとも云ふ。東ばやしは俗に云ふチンドン屋で、一人で太鼓、鐘、銅鑼を叩き、一方口上を述べて歩く。腰を振り振り妙な恰好で、これは皆さんご承知の筈である。)

この記事によれば、五人囃子はチンドン屋のルーツであるというより、都ばやしとも称する街頭宣伝の別形態ととらえている。同時に、一人囃子は東ばやしとも称して、これがチンドン屋であり、この取材時には五人囃子より一人囃子＝チンドン屋のほうが一般的であったように読み取れる。また、現在のチンドン太鼓は大太鼓・小太鼓・鉦だが、小太鼓の代わりに銅鑼が入っている。ちなみに『カメラ社会相』の人物も銅鑼を使用している。これについても『チンドン 聞き書きチンドン屋物語』で、菊乃家丸が〈ドラが入るから、ドンガジャガドンドン、ドンガジャガドンドンとこう言う調子になるの。賑やかだね、また音も違う〉と述べている。

○広目屋と映画「チンドン屋」

映画「チンドン屋」は『街頭経済』の取材記事とほぼ同時期に製作されたと思われるが、それは次のような「略筋」(『キネマ旬報』昭和3年2月1日号)である。



〈広目屋勘八は自分の卑しい職業を一人息子の勘一に知らせまいと、商売道具の金ピカ洋服を毎日停車場の一時預けにして帰宅するのであった。所が或る日勘一が町廻りをしてみると向こうから勘一の来るのを発見し、彼は広目屋の列から逃げだして了った。其事から彼は誅首され止むを得ず金ピカ服を持ち帰った(略)〉

引用の通り、映画のタイトルこそ「チ

ンドン屋」だが、その「略筋」では広目屋と記されている。また「配役表」にも「広目屋勘八」とある。先の『カメラ社会相』では「立派な東西屋」と題されていることから、この職業は普通には「広目屋」、または「東西屋」と称していた。

と同時に「卑しい」、または「立派ではない」職業と思われていたことも推察される。その「卑しい」「立派でない」ニュアンスをふくんだ呼び名が「チンドン屋」だった。この映画は主人公のそうした後ろめたい職業意識をテーマとしているので、「広目屋」ではなく「チンドン屋」となっていると考えべきだろう。

つい最近まで、子どもたちが口喧嘩するときや相手をからかって挑発するとき「バカカバ、チンドン屋」と囃し立てたものだが、その囃言葉の下地はもうこのころには出来ていたのだ。

『カメラ社会相』(大正14年9月1日撮影)と『街頭経済』(昭和2年9月取材)、さらに映画「チンドン屋」(昭和3年2月)と時間順にならべると、わずか3年ぐらいのうちに、街頭宣伝に携わる人々、それも一人囃子という形態が急増して人目につくことが多くなり、珍しいものではなくなっていたとも思われる。同時に五人囃子は音楽を聞かせて人の興味を引いたが、一人囃子は、旋律楽器がないから、音楽を聴かせるというより可笑しな腰つきで歩いて、面白い口上を述べることでひとの興味を惹いた。つまり滑稽さが売り物となった。そしてその滑稽さを、からかうような呼称が「チンドン屋」だったともいえるのではないだろうか。

ちなみに、昭和初年はエロ・グロ・ナンセンスなどをはじめとして新語や流行語がぞくぞく登場した時代で、それらを集めて解説した事典・辞典が多数出版されている。いまは普通に使われる言葉もこれに載っていたりする。その一例が「ピエロ」だが、この語の解説としてチンドン屋を引いているものもいくつもあるので、一つ紹介しておきたい。

『モダン語漫画辞典』(中山由五郎著、洛陽書院、昭和6年11月)

〈ピエロ(英 Pierrot)「道化役者」のことである。有名な歌劇「道化師」の中に「ピエロは常に笑ひの下に悲し

みを、白粉の裏に涙をたゝえてゐる」と云うせりふがある。(中略)街頭芸術家チンドン屋も「街のピエロ」と呼ばれる。〉

とある。また、この辞典には「チンドン屋」の項もある。

〈ちンドン屋 これは苟も国産ジャズを独奏するところの街頭音楽家であって、最近ではチンドン屋オーケストラなんて云ふのまで出現した。〉

○一人囃子

では一人囃子はいつごろからあったのか。これもはっきりしないが、『カメラ社会相』の撮影より9年ほどさかのぼった、大正5年11月29日、東京朝日新聞につぎのような記事を見つけた。小さくて読みにくいので翻刻する。



〈一人廣目屋(歳晩情景)〉

この頃凶の如き風態(なり)にてピラを背負ひ鉦太鼓を左右の手で叩き乍ら首を振って歩く広目屋がある。辻々に立っては假声(こはいろ)混りの口上も云ふ。諸事萬事一人で済して行くから調法だと大分受けがいい。彼れは女子供の集った頃を見計らひ「東西一扱御馴染みに預りまする△△亭の寄席は今回久々にて娘コミック▽▽一座を招聘仕りまして大車輪大勉強。…何は兎もあれ二番目狂言阿波の鳴門、お鶴の子別れ、これが却々(なかなか)面白うム(ござ)いますよ。エヘン(こゝから假声)して父(とゝ)さんの名はエ、ハイ一山葵と申します一、ウ、ウム、母さんの名はエ、ハイ一唐辛子と申します一ッ、辛子が効いたか目に涙、これは冗談、毎晩六時開演仕りますればお誘ひ合されお早々とお入りを願上奉ります」チンチャカチャとゝん(繰り返し)と又首を振って行く。〉